

## 事業名 福島空港2500m拡張事業

〔建設リサイクルの推進と新工法の採用により〕  
コスト縮減を図った事業

受賞機関 福島県土木部

福島県空港建設事務所

事業実施期間 平成7年11月3日～平成12年3月15日

事業費 27,200百万円

### 技術等の特徴と評価

本工事においては、リサイクルを積極的に推進することとし、進入灯橋梁の転用、撤去舗装材の再利用、工事に伴い撤去した既設U型側溝、場周柵の再利用を積極的に行い、資源の有効活用や建設産業廃棄物の発生抑制に努めたほか、大型締固め機械による路床の再転圧を行うなどの新技術の採用により、滑走路の下層路盤厚を従来厚の半分以下として使用材料を低減するなど、コスト縮減と効率的な工事の実施に努めたことが評価される。

### 事業の概要と効果

福島空港は、平成5年3月20日に滑走路長2,000mを有する第三種空港として開港した。

本事業は、増大が見込まれる空港需要に対処するため、大型航空機の就航が可能な2,500m滑走路及び誘導路の整備とターミナル地域の整備を行ったもので、平成12年7月に全面供用開始を迎える。

特に、事業の実施にあたっては、次のようなりサイクルの推進と新工法の採用により、資源の有効活用や建設廃棄物の発生抑制やコスト縮減に努めた。

#### ・進入灯橋梁の転用

着陸しようとする航空機に対し、最終の進入経路を



侵入灯橋梁 PALS側



福島空港

示すための標準式進入灯(PALS、南側)と簡易式進入灯(SALS、北側)の設置にあたり、転用に十分耐える部材であることが確認された。

この結果、既成橋梁の90.3%を転用することができ、新設橋梁に占める転用材の割合は47.3%となった。

#### ・撤去舗装材の再生利用

旧滑走路舗装の撤去材を有効利用するため、新設する誘導路の基層やAS安定処理路盤への再生利用を図った。

#### ・牽引式MVTの再転圧による路床支持力増加工法

路床支持力増加策として大型締固め機械である牽引式MVT(マンモスバイプロタンパー)による再転圧を行って、設計CBRを12%に増加させることにより舗装厚を低減させ、コスト縮減を図った。

受賞賛助会員 ㈱大林組東北支店、鹿島建設㈱東北支店、  
駒井鉄工㈱東北営業所、大成ロテック㈱福島事業所、  
㈱ピー・エス福島営業所、松尾橋梁㈱仙台営業所



全景